

2026年5月11日

各 位

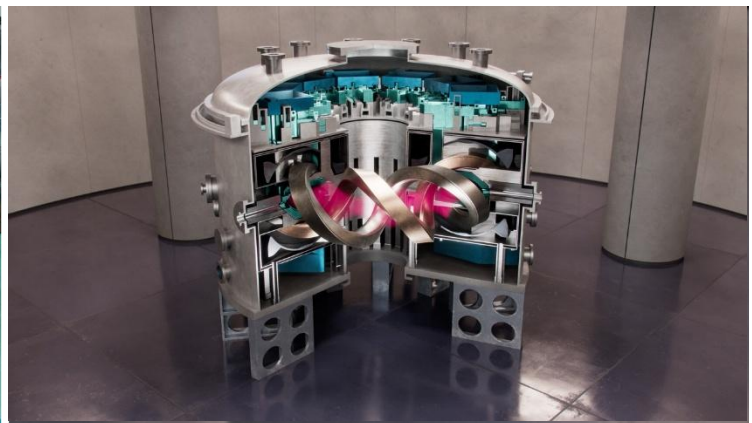
会 社 名	三 谷 産 業 株 式 有 限 公 司
	代表取締役社長 三 谷 忠 照
コード番号	8285 (東証スタンダード・名証プレミア)
本社所在地	石川県金沢市玉川町1番5号
問い合わせ先	
責任者役職名	常務取締役 財務・広報担当
氏 名	内 田 大 剛
T E L	076 ( 233 ) 2151

## 株式会社 Helical Fusion への資本参画のお知らせ

三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）は、世界初の商用利用可能な核融合炉の実現を目指す株式会社 Helical Fusion（本社：東京都中央区／代表取締役 CEO：田口 昂哉、以下 ヘリカルフュージョン）に出資し、資本参画したことをお知らせいたします。ヘリカルフュージョンは、今回のシリーズBラウンド（1st close）にて、三谷産業を含む投資家群より約27億円の資金調達を完了し、東京都「ゼロエミッション東京の実現等に向けたイノベーション促進事業」（補助額：最大10億円）とあわせ、累計調達額は約98億円（補助金・融資を含む）となりました。

ご参考：ヘリカルフュージョン 2026年4月28日付プレスリリース

<https://www.helicalfusion.com/post/フュージョンエネルギー実用化を進めるhelical-fusion、シリーズbラウンド-1stクローズ約27億円の資金調達で、最終実証装置「helix-haruka」建設を前進-累計調達額は98億円>



ヘリカルフュージョンが建設中の Helix HARUKA のイメージ（左、作業用の足場に囲まれた中心部が本体）と

同社が 2030 年代に「実用発電」を計画する発電初号機「Helix KANATA」のイメージ（右）

国際エネルギー機関（IEA）の年次報告書「2023年版世界エネルギー見通し」によれば、世界の人口は2050年までに約17億人増加するとされ、このことは世界的な電力需要がますます拡大することを意味します。日本においては、エネルギー自給率が非常に低い状況にあることも背景に、現在、「重点投資対象17分野」にフュージョンエネルギー（核融合）を挙げており、学術研究の段階から官民をあげた産業化への動きが加速しています。

ヘリカルフュージョンは、世界初のフュージョンエネルギーによる「実用発電」を目指し、日本における約70年の研究開発成果をもとに、ヘリカル型核融合炉の開発を進めています。同社は、三谷産業が毎年12月に主催するビジネスコンテスト「MITANI Business Contest」の2025年開催分においてファイナリスト

として登壇し、「～日本にもうひとつ太陽をつくろう～ 世界初の核融合エネルギー実用化を日本の『ものづくり』の力で達成する『Helix Program』」をプレゼンテーションしていただきました。

ご参考：三谷産業 2025年12月17日付プレスリリース

日本全国から97のビジネスプランがエントリー「MITANI Business Contest 2025」受賞結果発表！ <https://www.mitani.co.jp/news/251217>



三谷産業が主催する「MITANI Business Contest 2025」にて熱心にプレゼンテーションを行う、ヘリカルフュージョン・田口代表取締役CEO

三谷産業は、私たちが生活する地上で太陽のエネルギーを再現するというヘリカルフュージョンの夢に乗りたいと考え、出資させていただきました。核融合発電は、CO<sub>2</sub>を排出せず、暴走のリスクがなく、高レベル放射性廃棄物を出さない点で理想に近いエネルギーの一つです。また、日本発の技術であるヘリカル方式（核融合炉において高温プラズマを磁場で閉じ込める方式の一つで、二重らせん形状のコイルを用いて、ねじれた磁場を形成するもの）の安定運転性・外部への電力供給性・保守性それぞれの高さにも注目しております。三谷産業は、今回の資本参画を通じて、商社としての資材調達や幅広い顧客基盤をご提供するなど、中長期的な視点でご支援いたします。

以上